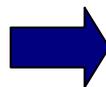


2.NT20S リプレース

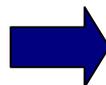
NT20S - ST121(B)-V3 (液晶ブルーモード)
NT20S - ST161(B)-V3 (液晶ホワイトモード)
NT20S - ST122(B)-V1 (液晶ブルーモード)
NT20S - ST124 (液晶ブルーモード)



リプレース

NT20-ST121(B) (液晶ブルーモード)
に置換えます

NT20S - ST128 (B) (液晶ブルーモード)
NT20S - ST168 (B) (液晶ホワイトモード)



リプレース

NT20-ST128(B) (液晶ブルーモード)
に置換えます

2 - 1 : リプレース (NT20 に置換え)

< 置き換えに際しての注意点 >

NT20はNT20Sと大変高い互換性を持った商品ですが、置換えに際しては以下の点にご注意願います。

以下のNT20Sはホワイトモード液晶のため、ブルーモード液晶のNT20にリプレース時見栄えが変わります。

NT20S-ST161(B)-V3

NT20S-ST168(B)

電源端子台や232Cコネクタの配置がNT20SとNT20では異なっていますので、P4の「2-1-2:電源端子台と各コネクタの位置について」の寸法図を参考に、配線の変更をお願いします。

NT20はNT20Sと比べ、外形寸法/パネルカットが縦方向に2mm小さくなっています。パネルカット寸法の違い(2mm)を吸収するために、NT20本体に厚さ2mmのスペーサが同梱されていますので、NT20に貼り付けてご使用願います。

詳細はP11「NT20同梱のスペーサの取り付け」を参照願います。

C200H I/F ダイレクト置換え時には、別途以下の「HOST I/Fユニット」と「拡張I/Fユニット」が必要です。

- ・ HOST I/Fユニット : 形NT600M-LB122-V1
- ・ 拡張I/Fユニット : 形NT20-IF001

置き換え対象機種

形式	通信方式
<液晶ブルーモード> NT20S-ST121(B)-V3 <液晶ホワイトモード> NT20S-ST161(B)-V3	上位リンクダクト
	NTリンク
	三菱A 計算機リンク 三菱FX 接続



リプレイス推奨機種

形式	通信方式
NT20-ST121(B)	上位リンクダクト
	NTリンク
	三菱A 計算機リンク 三菱FX 接続

形式	通信方式
<液晶ブルーモード> NT20S-ST122(B)-V1	C200H I/F ダクト



形式	通信方式
NT20-ST121(B)	C200H I/F ダクト <small>(注)別途、「ホストI/Fユニット(形 NT600M-LB122-V1)」と「拡張I/Fユニット(形 NT20-IF001)」が必要になります。</small>

形式	通信方式
<液晶ブルーモード> NT20S-ST128(B) <液晶ホワイトモード> NT20S-ST168(B)	RS232C



形式	通信方式
NT20-ST128(B)	RS232C

形式	通信方式
<液晶ブルーモード> NT20S-ST124	三菱FX 接続



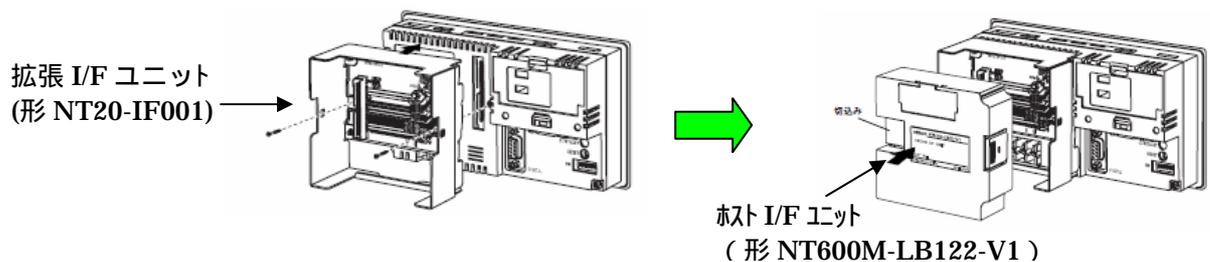
形式	通信方式
NT20-ST121(B)	三菱FX 接続

C200H I/F ダイレクト通信について

NT20Sには「C200H I/F ダイレクト」の通信ユニット機能が本体に組み込まれていましたが、NT20には「C200H I/F ダイレクト」の通信ユニット機能は実装されていません。

そのため、「C200H I/F ダイレクト」通信の場合、別途「ホストI/F (形 NT600M-LB122-V1)」が必要になります。

また、NT20は構造上、そのままではホストI/Fユニットが取り付けられないため、以下の様に「NT20本体」と「ホストI/Fユニット」の間に「拡張ユニット(形 NT20-IF001)」を取り付ける必要があります。



2 - 1 - 1 : NT20SとNT20の主な仕様について

置き換え機種 : NT20S - ST1 (B) - V

NT20S-ST1 (B) - V と NT20-ST12 (B)の主な仕様は以下のとおりです。

項目	NT20S - ST1 (B)	NT20 - ST12 (B)
外形寸法(W、H、D)	190×110×58mm	190×108×53.5mm
推奨パネルカット寸法(横×縦)	178.5×100.5mm	178.5×98.5mm
表示デバイス	白黒STN液晶/ブルーモード液晶	ブルーモード液晶
有効表示エリア(横×縦)	112×56mm	115×58mm
表示ドット数(横×縦)	256×128ドット	
視野角	左右方向: ±35°	
定格電源電圧	DC24V	
消費電力	10W以下	10W以下
使用周囲温度	0～50	

NT20S-ST1 (B) - V と NT20-ST12 (B)に関しては以下の違いがありますのでご注意ください。

1) 外形寸法について

外形寸法はNT20の方が小さくなります。

(W:同じ H:2mm小さい D:4.5mm小さい)

2) パネルカット寸法について

NT20のパネルカット寸法はNT20Sより縦方向で2mm小さくなります。

NT20置き換えの際は、NT20に同梱のスペーサ(厚さ2mm)をNT20に貼り付けることでNT20SパネルカットにNT20を設置できます。

3) 表示部の見栄えについて

NT20液晶はブルーモード液晶です。

NT20S-ST161(B)-V3 と NT20S-ST168(B)はホワイトモード液晶のため、NT20にリプレースすると表示部の見栄えが変わります。

4) 電源について

電源電圧は同じですが、NT20の消費電力は10W以下とNT20S-ST12 (B)の10W以下に対して減少していますので特に問題ありません。

5) 盤内配線について

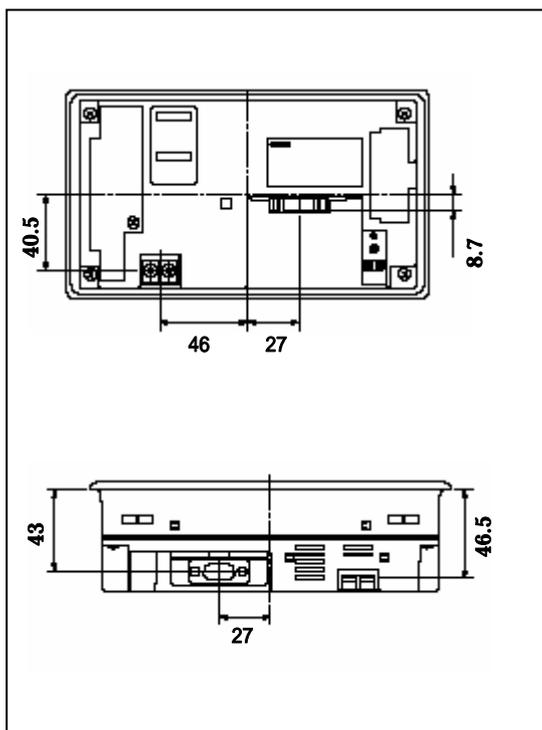
電源端子台や232Cコネクタの配置がNT20S-ST12 (B)と異なっていますので、P4の「2-1 - 2:電源端子台と各コネクタの位置について」の寸法図を参考に、配線の変更をお願いします。

2 1 2:電源端子台と各コネクタの位置について

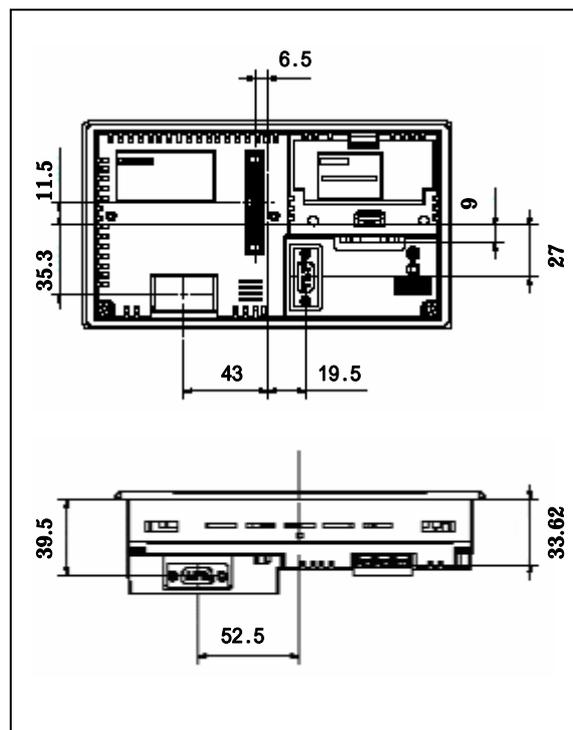
NT20SとNT20では電源端子台と各コネクタの位置が異なります。既存の盤内配線をそのまま使用する場合は、場合によっては配線の変更が必要になります。

下記寸法図を参考に盤内配線を考慮願います。

NT20S



NT20

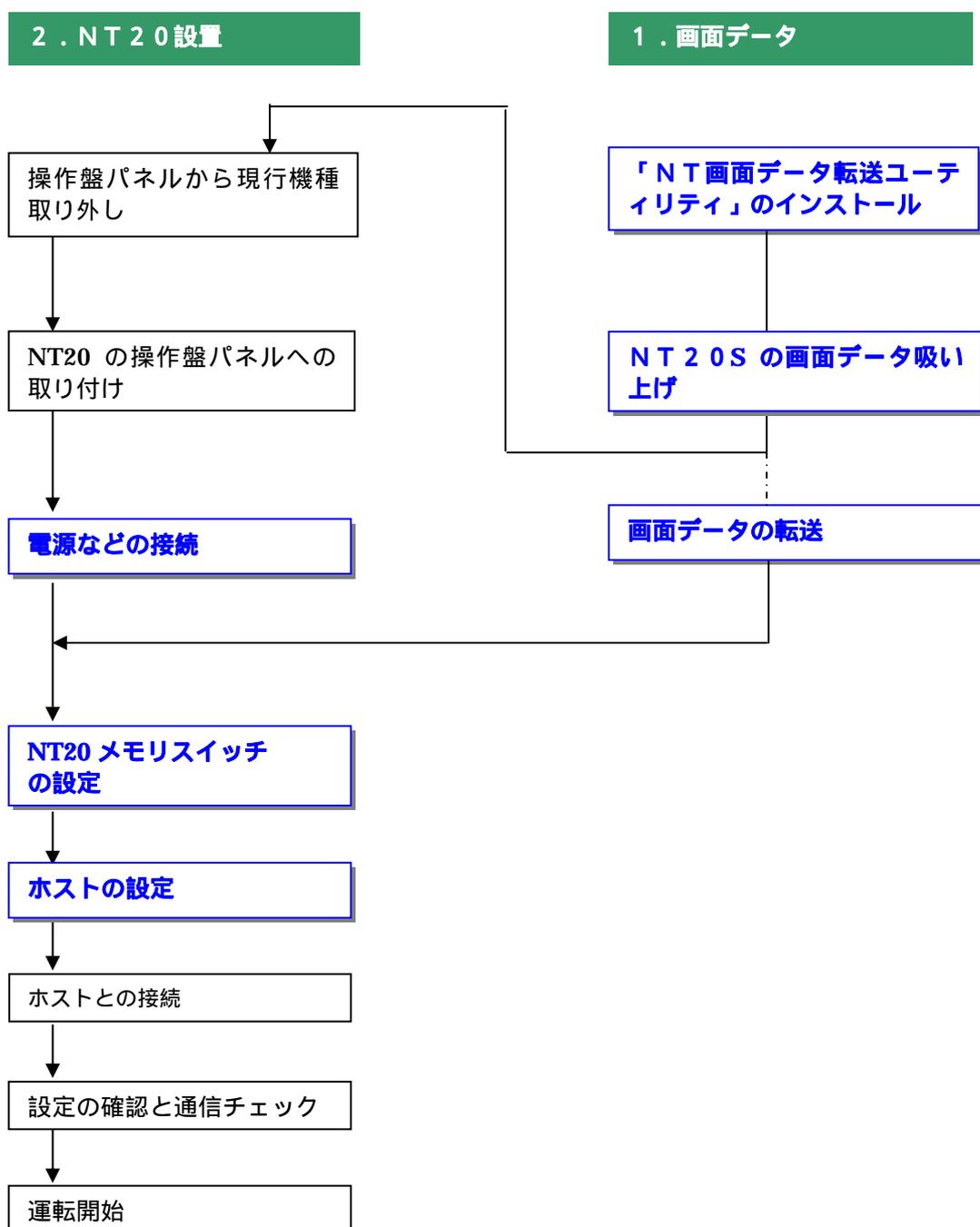


2 - 1 - 3 : NT20S画面データについて

NT20Sの画面データはそのまま「NT画面データ転送ユーティリティ」を使ってNT20に転送可能です。

2 - 1 - 4 : NT20へのリプレースの手順

NT20へのリプレースは以下の手順に従って置き換えてください。



2 - 1 - 4 - 1) : NT 20 S 画面アップロード

1. NT画面データ転送ユーティリティのインストール

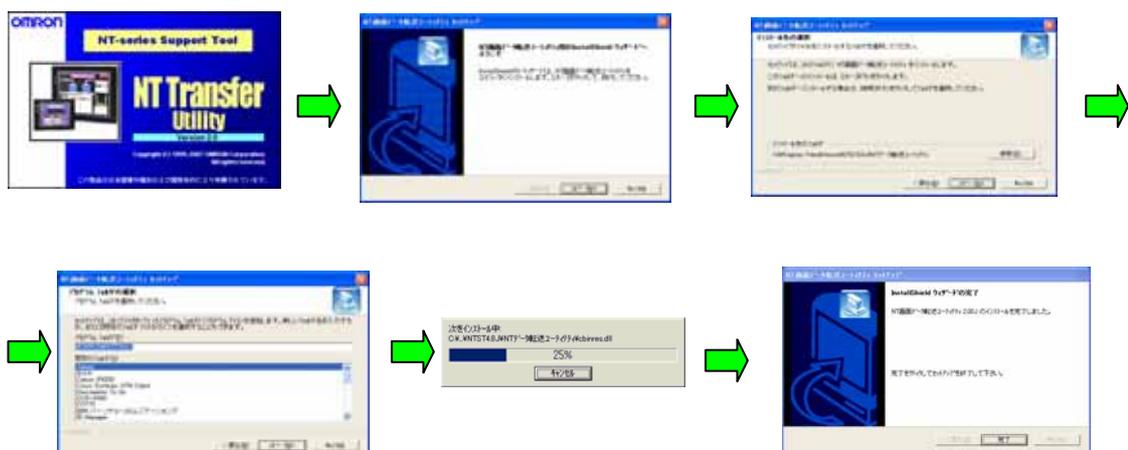
NT 20 S の画面アップロード / NT 20 への画面ダウンロード用ツールとして、「NT画面データ転送ユーティリティ」をパソコンにインストールします。

「NT画面データ転送ユーティリティ」は「NTシリーズサポートツール Ver 4 for Windows」の CD-ROM から以下の方法でインストールして下さい。（Ver. 4.8 以上が必要です）

エクスプローラにて CD-ROM の「NT画面データ転送ユーティリティ」を開き、その中の Setup.exe を実行します。



「NT画面データ転送ユーティリティ」のインストールが始まりますので「次へ」「次へ」でインストールを完了して下さい。



完了

2. NT20Sの画面データの吸い上げ

「NT画面データ転送ユーティリティ」を起動し、NT20Sから画面データを吸い上げます。
NT20Sを転送モードにし、NT20Sとパソコンを転送ケーブルで接続してください。

必要なツール

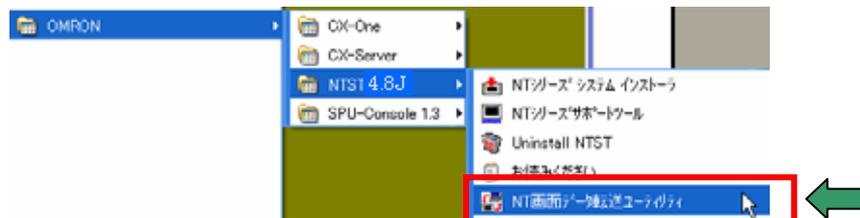
- ・NT画面データ転送ユーティリティ
- ・パソコン接続ケーブル
RS-232C 接続ケーブル
形 XW2Z-S002 (NT20 / NT20S とパソコンとの画面データ転送用)
- USB シリアル変換ケーブル
形 CS1W-CIF31(USB - シリアル変換：必要であれば)

NT20Sを転送モードにし、パソコンと接続ケーブルで接続します。

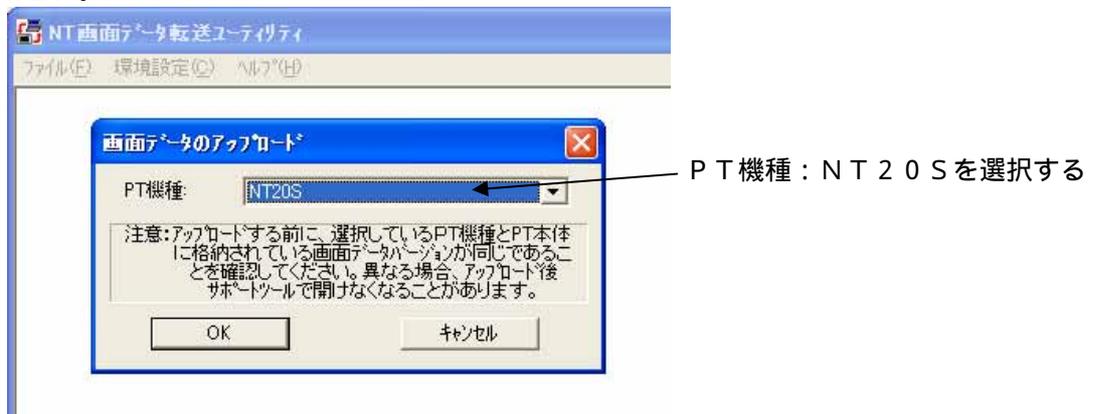


転送ユーティリティを立ち上げます。

「スタート」「全てのプログラム」「OMRON」「NTST4.8J」「NT画面データ転送ユーティリティ」を選択してください。



「ファイル」「アップロード」でPT機種を「NT20S」を選択し、「OK」を押下してください。



NT20Sの画面アップロードが開始されますので、アップロードが完了しましたらOKを押下してください。



アップロードの完了

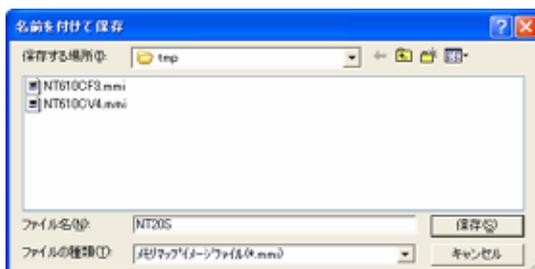
アップロードが完了しますと、下記ダイアログが表示されますので「OK」を押下してください。



「名前をつけて保存」ダイアログにて、NT20Sからアップロードした画面を保存してください。

拡張子は、NT20Sを作成したツール（Windows版 / DOS版）により自動的に以下のように変わります。

Windows版 / DOS版ダイレクトVer5 ツールの場合



DOS版ダイレクトVer4 ツールの場合



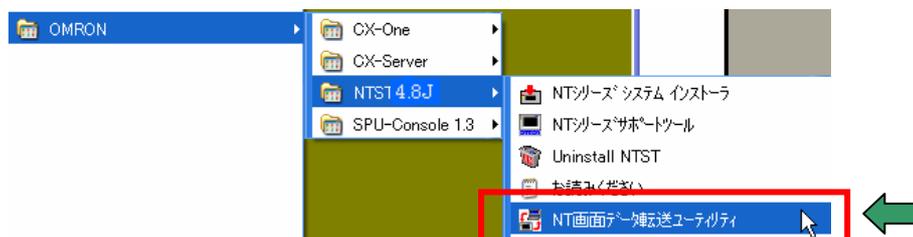
3. 画面データ転送

NT20Sの画面データアップロードが完了しましたら、次に「NT画面データ転送ユーティリティ」にてアップロードしたNT20S画面データをNT20に転送します。

NT20を転送モードにし、裏面のPortAコネクタとパソコンを転送ケーブルで接続してください。

転送ユーティリティを立ち上げます。

「スタート」 「全てのプログラム」 「OMRON」 「NTST4.8J」 「NT画面データ転送ユーティリティ」を選択してください。

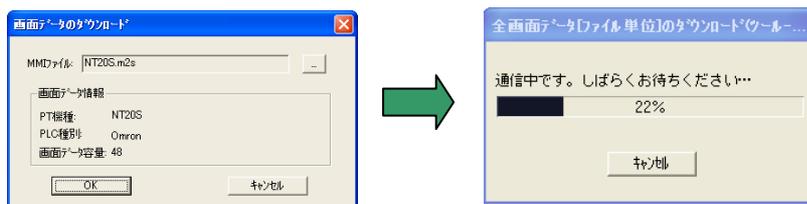


転送する画面データを選択します。

「ファイル」 「ダウンロード」にてP8 - にて保存したNT20S画面データを選択してください。



画面データのダウンロードダイアログにて「OK」を押下しますと、画面のダウンロードが開始されます。



ダウンロードが完了すると以下のダイアログが表示されますので「OK」を押下してください。



以上で、NT20への画面データ転送が完了しました。

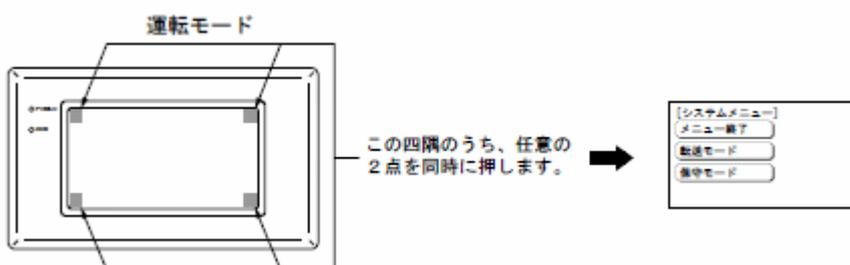
NT20の『ツール転送モード』について

NT20にはNT20M/NT20Sの画面をそのまま転送するために『ツール転送モード』があります。

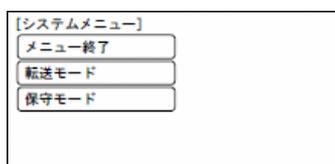
NT20S画面データを転送するには、『ツール転送モード』をNT20Sに設定する必要がありますが、NT20購入時は『ツール転送モード』はNT20Sに設定されていますので特に設定を変更する必要はありません。

『ツール転送モード』は以下の方法で変更することが出来ます。

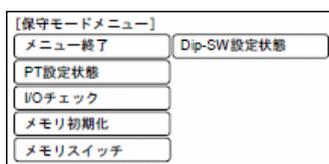
NT20のシステムメニューを表示します。



「保守モード」「メモリスイッチ」を選択し、『ツール転送モード』を「NT20S」に変更し  を押下します。



『保守モード』を選択します



『メモリスイッチ』を選択します



「ツール転送モード」タッチスイッチを押すごとに、設定内容の表示が「NT20」、「NT20S」、「NT20M」に変わります。

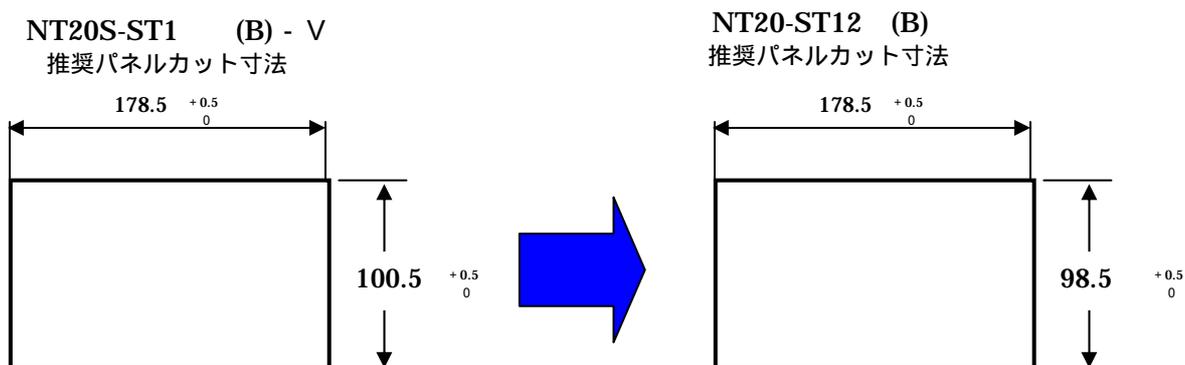
2 - 1 - 4 - 2) : NT 2 0 の設置について

NT 2 0 を制御盤に取り付け、P L C と接続します。

1 . NT 2 0 同梱のスペーサの取り付け

NT 2 0 はNT 2 0 S に比べ外形サイズ / パネルカット共に縦方向で 2 mm 小さくなっています。NT 2 0 をNT 2 0 S のパネルカットにそのまま取り付ける場合は、NT 2 0 に同梱の「スペーサ」をNT 2 0 に貼り付けてからNT 2 0 を取り付けてください。

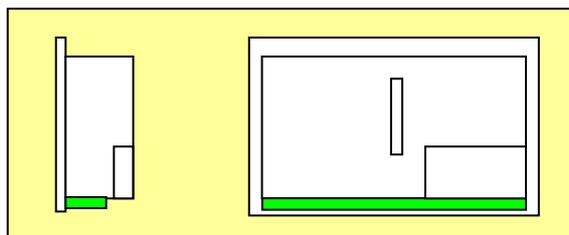
パネルカット寸法の違いとスペーサの取り付け



スペーサの取り付け

NT 2 0 に同梱のスペーサをNT 2 0 の下部ケースに貼り付けてください。

 ← スペーサを以下のようにNT 2 0 に貼り付け下さい



2 . NT 2 0 の操作盤への取り付け

NT 2 0 を制御盤へ取り付けます。取り付けはNT 2 0 付属の専用取り付け金具を使用します。

3 . 電源などの接続

- ・ NT 2 0 S とNT 2 0 は電源端子台やコネクタの位置が異なります。
P 4 の「2 - 1 - 2 : 電源端子台と各コネクタの位置について」を参照し、電源線や通信ケーブル等の接続をします。

- ・ 拡張 I / F ユニット (形 NT 2 0 - I F 0 0 1) 装着時、拡張 I / F ユニットの接続用ネジと NT 2 0 本体の N . C 端子を短く配線 (1 0 0 mm 以内) し、N . C 端子を介して接地して下さい。
詳細は「NT20 ユーザーズマニュアル (SBSA-525) 」の「2-7-2 : 接続の仕方」を参照願います。

4 . NT 2 0 メモリスイッチの設定

PLC との通信方式などの設定をメモリスイッチにて設定します。

メモリスイッチ設定

- ・ NT20 の画面の 4 隅のうち任意の 2 個を同時に押して、「システムメニュー」に入ります。
 - ・ 「システムメニュー」の画面の「保守モード」を押します。
 - ・ 「保守モード」メニューの「メモリスイッチ」を押します。
 - ・ メモリスイッチで通信方式などの P T 動作条件を設定します。
- 設定内容の詳細については「NT20 ユーザーズマニュアル (SBSA-525) 」の「システムメニューの操作」を参照ください。